

平成30年度 第二回南風原町男女共同参画推進会議 意見概要

日時：平成30年9月12日（水）午後3時～5時

場所：南風原町役場 4階 401会議室

参加者：9名 ※敬称略

新垣誠、桃原一彦、山中久司、平田峯子、高嶺喜美子、
仲村渠苗子、大城早恵子、赤嶺マキ、新垣奈々

事務局：総務部長、企画財政課長、企画統計班長、担当

■意見概要

○国際交流事業について

- (1) 国際交流事業に応募して採用されなかった子は意欲はあるので、どうかフォローアップもしてほしい。また参加した生徒も、南風原町や地域に還元できるような人材育成をしてほしい。
- (2) 国際交流事業は町の予算を使っているので、選考の段階から地域にも還元するという視点も持ってほしい。
- (3) 国際交流事業に参加した生徒は、事前研修や事後研修、報告会なども、よく頑張ってくれていると思う。また、ホストファミリーが沖縄にきた際の交流会で過去に参加した生徒の話を聞くと、活躍の場は違うけれど、それぞれ頑張っていました。(海外留学等)
- (4) 国際交流事業にも男女共同参画の視点を盛り込めないか。女子生徒の参加が多いということなので、未来の女性リーダー育成という視点も加えて、例えば現地の女性中心に活動しているグループとか、女性リーダーとの意見交換、LGBTの方々との交流など。また、世代間交流ということで女性の翼に参加した方との意見交換など。

○平和・人権教育について

- (1) 戦時中の人権侵害の根底には、女性差別や男性優位社会といった問題があると思う。
- (2) 男性と女性で戦争体験も違うと思う。そのあたりと事業課を中心に掘り起こして子どもたちに伝えるとかも良いのでは。

(3) 平和学習の中にも、男女の人権問題、男女共同参画といった視点を盛り込んで、子どもたちに伝えていってほしい。

○学校関連について（男女混合名簿等）

(1) 男女混合名簿の導入が出来ていない理由として、身体測定や体力テストなどがあがるが、コンピュータで管理できるから問題ないと思う。また導入の際には、ジェンダー教育も合わせて行って欲しい。

(2) 学校の制服について、男女で分けていると、例えばトランスジェンダーの生徒は心と体の性が違うため、苦痛に感じることもある。そのような生徒のためにも、選択制の導入や制服の意義など幅広い視点で柔軟な対応が必要。

(3) 一方では、制服を廃止したことで、始めのうちは良かったが後に弊害（同じTシャツばかりでいじめられる、費用が余計かさむ等）もあったよう。

(4) 行政も学校も人は変わっていくから、きちんとした規程や方針などを作って、迅速な対応が出来るようにして欲しい。

○委員会の男女比率について

(1) 委員会の男女比率 50 %を目標としているが、仕事内容的に全ての委員会を男女半数ずつというのは厳しいのではないか。

(2) 教育福祉関連の委員会は比較的、女性委員の比率は高いのですが、都市計画とか土木建築、選挙管理委員会、農業委員会等は女性委員が低い傾向にあるので、人材発掘や育成が課題。

(3) 農業や伝統工芸、地域では、働き手は女性が多いが、意志決定部分は男性が圧倒的に多いという現状がアンバランスであるため、改善が必要。

○男性向けの施策について

(1) 女性が働きやすい環境づくりなどは、男性の家事・育児参加が不可欠、男性の意識改革が必要ですし、女性リーダー育成についても、それを支える男性がいないといけないという話もあります。

(2) 啓発事業や講演会、研修などにしても、男性に興味を持ってもらう必要がある。男性には男性の、女性には女性特有の悩みがあるはずなので、例

例えば男性はメンタル面、女性は経済面での悩みなど、興味を引くテーマを扱う必要がある。

- (3) 男性のメンタル面という観点で、様々な依存症に陥るのも男性が多く、しかも病院に繋がらないケースもある。また依存症を持つ親の子どもは、精神的な問題を抱えているケースもあるため、子どものケアも必要。こういう観点からの男性のメンタル部分での依存症に着目してもいいのでは。
- (4) 大きくまとめると、依存症というのは物質依存と言われ、その根本は物質そのものではなく、人間関係からの問題を抱えたところから物質に依存してしまう、逃げてしまう状況がある。例えば男性に対して、「男は仕事」というようなプレッシャーを与えられたり、人間関係に問題を抱えた結果、ギャンブルやお酒に依存してしまうこともあるから、ジェンダーが絡んでいるところも重要。
- (5) 加害者は男性という一方的な表現ではなく、男性も被害者になりうるという視点も考えてみては。
- (6) 男性の育児休暇取得などが進まないのは、周りの目とか気になっていたり、そういう社会になっているので、大人の意識を変える必要があるが、時間がかかると思う。

○その他

- (1) 小学4年生からの性教育は遅いと思う。もっと幼少期から取り組んでもらいたいのと、家庭においても、親は子どもの性自認を否定しないように、親の意識改革が必要。
- (2) 若い世代の男性はイクメンと周りから言われても、職場においては理解が進んでおらず、理念や理想は素晴らしいが現実が追いついていない。男女共同参画やワーク・ライフ・バランスという言葉自体知らない人もいる。また、イクメンという言葉があること自体、男性が家事・育児をすることは世間ではまだ当たり前ではないということ。
- (3) シニア世代の男性の引きこもりなども問題になったりしますが、仕事を終えた男性が孫とどう関わるかとか、地域で活躍してもらうためのワークショップなども面白いと思う。これから益々高齢化が進むため、シニア世

代力は大きなものだと思う。

- (4) 役場の子育て世代の職員は、以前に比べると学校行事や地域行事とくに両親揃って参加しているのを見かけるので、行政もワーク・ライフ・バランスに取り組んでいるのかなと感じる。